

# 委員 会 報 告

### 1 総括

2024年度は福祉専門ゼミナール（愛称：こうのとりゼミ）とマインドフルネスフォローアップ研修を開催した。

「福祉専門ゼミナール（愛称：こうのとりゼミ）」は、前期は「孤独や孤立という社会課題にソーシャルワーカーはどう向き合うのか？」後期は「子どもの育ちを支える」という共通テーマで開催した。

「マインドフルネスフォローアップ研修」はZoomを活用し実施した。最新の知見を交えた質の高い内容で、受講者の満足度は高く、専門職のストレスケアに貢献することができた。

### 2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
6	14	15名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>前期① 「認知症の私から見える社会」 丹野 智文 氏（認知症当事者）
7	5	20名	Zoom	マインドフルネスフォローアップ研修 講師：池埜 聡氏（関西学院大学人間福祉学部教授）
7	12	14名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>前期② 「トラウマインフォームドケアと高校生支援」 辻田 梨沙氏（精神保健福祉士）
8	2	21名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>前期③ 「孤独孤立と生活困窮者の支援～孤立孤独対策推進法など新しい法制度を踏まえて～」 尾崎 幸弘 氏（弁護士）
11	8	20名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>後期① 「愛着障害と発達障害の理解と支援」 米澤 好史氏（和歌山大学教育学部心理学教室教授）
12	13	14名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>後期② 「社会福祉士として、発達に課題のある外国人ルーツの子どもと保護者を、支援するために」 田中 ネリダ氏（公認心理士）
1	10	14名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>後期③ 「不登校の子どもたちが増えている現状と、これからの未来に思うこと」 森本 邦裕氏（フリースクールたね運営）

### 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	20	6名	自宅・職場等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
5	18	5名	自宅・職場等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
6	15	6名	自宅・職場等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
7	20	5名	自宅・職場等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
8	17	5名	自宅・職場等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
9	21	4名	自宅・職場等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
11	16	7名	自宅・職場等	最終打ち合わせ (Zoom)

## 1 総括

今年度は、近畿ブロック研究研修大会や日本社会福祉士会全国大会での発表を目指して研究する会員の腕試しの場としての実践発表会の開催を1月11日に実施した。今年度は試験的に、基礎研修Ⅱ（実践評価・実践研究系科目Ⅰ「実践研究の意義と方法」）と日程を合わせ、基礎研修受講者が実践発表会に参加しやすいようにした。基礎研修のプログラムと連動させることで、受講者の関心を高めることができた。この工夫により、昨年度から参加者が2.6倍に増加した。

長らく休刊していた研究誌『兵庫社会福祉士』第18号を発行した。1件の論文の投稿があり、会員の実践発表に資する構成とした。本委員会は、会員の実践研究活動を活性化させることを主たる目的として、実践発表会の企画運営と研究誌『兵庫社会福祉士』の発行を行っている。実践研究が低迷している現状から、まずは会員が実践発表に取り組むことを推奨、支援することに重点を置いて活動する方針とした。今後もこの活動を地道に継続していきたい。

また委員会メンバーの獲得のため、このとり通信に委員会メンバー募集のチラシを挟み、積極的な工法を行った。その結果、新たに2名の委員会メンバーを獲得した。一方で、様々な事情から活動を休止する委員、長期間活動をしていない委員もいるのが実態で、委員会メンバーの増加には至っていない。委員会事業の継続性を鑑み、継続して委員会メンバーを募集すること、既存メンバーの定着性を高めることが今後一層求められる。

## 2 事業報告

- ・ 実践研究報告会：1月11日実施29名参加（うち3名が報告）
- ・ 研究誌『兵庫社会福祉士』の発行

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	28	4名	県福祉センター	実践発表会の検討 委員会メンバー募集に関する検討
6	30	5名	県福祉センター	実践発表会の検討・研究誌の内容に関する検討
8	10	6名	県福祉センター	実践発表会の検討・研究誌の内容に関する検討
10	14	9名	Zoom	実践発表会の検討・研究誌発行再開に関する検討
11	15	5名	Zoom	実践発表会の検討・研究誌発行再開に関する検討
12	20	12名	Zoom	実践発表会の検討・研究誌発行再開に関する検討 生涯研修センター委員について 次年度予算について
2	13	5名	Zoom	実践発表会について（ふりかえり、次年度計画） 次年度体制について 委員会メンバー募集について
3	19	8名	Zoom	次年度運営体制について 次年度実践発表会について

## 1 総括

各種講座開催及び講師派遣により、受験生に対して社会福祉士国家試験合格に向けた学習面の支援を実施した。昨年度に引き続き集合形式に加え、オンライン形式での開催は、県外含む遠方の受験生に対しても支援ができるなどの効果がみられた。また、Googleclassroom アプリを活用し、模擬問題の提供や質疑応答、さらには受講生からの相談等にも対応し、試験日当日まで継続した支援を実施することができたことは、学習面の支援に加え心理面のサポートにも繋げることができた。また、国家試験当日には、受験生へ向けた激励および解答例作成を実施することにより、国家試験対策委員会の活動を通して兵庫県社会福祉士会の存在を PR することができた。

入会促進においては、先に挙げた激励や解答例での PR 活動、そして、合格者を招待しての合格祝賀会開催により受験の労をねぎらうと共に、社会福祉士会員との交流により、本会の活動や資格取得後の活動の PR を実施することができた。

事業多様化による委員への負担軽減においては、今年度より新たに役割分担を実施することで活動の効率化を図っており、今後は浸透・定着を進め更なる発展に繋げていく。

## 2 事業報告

### 『社会福祉士合格祝賀会』

日 時：2024 年 4 月 28 日（日） 11：30～13：30

場 所：ダイナミックキッチン&バー 燦-SUN- 神戸

参加者：26 名（内訳：合格者 11 名、役員等 3 名、運営委員 12 名）

### 『社会福祉士国家試験 受験対策講座の開催』

日 時：2024 年 8 月 25 日、9 月 16 日、22 日、10 月 6 日、27 日 9：30～17：00（計 5 日間）

場 所：兵庫県福祉センター、Zoom

受講生：31 名（内訳：センター 17 名、Zoom 14 名）

### 『社会福祉士国家試験 直前対策講座』

日 時：2025 年 1 月 12 日（日）、13 日（月・祝）

場 所：Zoom

受講生：29 名

### 『社会福祉士国家試験 統一模擬試験』

日 時：2024 年 11 月 4 日（月・祝） 10：00～15：30

場 所：兵庫県福祉センター、自宅

受講生：68 名（内訳：センター 58 名、自宅 10 名）

### 『講師・チューター派遣』

2024 年 12 月～2025 年 1 月 神戸女子大学直前対策講座 計 6 日間（19 科目 16 名）

2024 年 10 月～2024 年 12 月 地区ブロック自主ゼミ 計 7 日間（8 科目 7 名）

### 『社会福祉士国家試験日 激励と労い』

日 時：2025 年 2 月 2 日（日） ①8：00～9：30 ②14：30～16：00

場 所：神戸国際展示場、神戸ファッションマート

参加者：7 名

### 『第 37 回社会福祉士国家試験 試験解答速報』

日 時：2025 年 2 月 2 日（日） 12：00～20：30

場 所：兵庫県福祉センター、Zoom

参加者：19 名（運営委員+講師）

### 3 委員会開催日

月	日	参加	場 所	内 容
4	22	10名	Zoom	臨時開催：役員交代、今後の動き
4	28	12名	兵庫県福祉センター	新役員体制、合格祝賀会、チラシ作成、業務分担、委員会規程の改定
5	19	11名	Zoom	合格祝賀会ふりかえり、委員会規程の改定 業務分担、チラシ作成
6	9	16名 (講師含む)	Zoom	講師会議：国試ふりかえり、新カリキュラム、 受験対策講座、講師依頼 運営委員会：SNSの活用、PR動画、本講座
7	14	11名	兵庫県福祉センター Zoom	会場接続テスト、申込状況確認、スタッフ当番、 新カリキュラム座談会、講師派遣
8	11	15名	兵庫県福祉センター Zoom オンライン	会場接続テスト、申込状況確認、スタッフ当番 新カリキュラム座談会、決定通知、講師派遣
9	16	13名	兵庫県福祉センター Zoom	本講座の実施状況、統一模試、直前対策講座、 講師派遣、受験のしおり
10	27	10名	Zoom	本講座のふりかえり、申込状況、講師派遣、 2025年度事業計画・予算案
12	12	10名	Zoom	統一模試ふりかえり、直前対策講座、講師派遣 激励・解答例作成、2025年度事業計画・予算案
1	19	14名	Zoom	直前対策講座ふりかえり、激励・解答例作成 チラシ作成、アンケート
2	23	10名	Zoom	激励・解答例作成のふりかえり、アンケート 合格祝賀会、次年度受験対策講座
3	16	11名	Zoom	委員会名簿・交通費報告、第37回国家試験、 合格祝賀会、チラシ作成、業務分担

## 1 総括

2024 年度は会議と機関誌「こうのとりの通信」作りの作業はオンラインで行った。また、福祉の動向や本会及び社会福祉士について幅広く発信することを目的とする広報誌「Pocket」は、孤独・孤立をテーマとして特集に取り上げて作成した。

会員に有益な情報を届けることができる魅力ある紙面づくりを目指しており、研修等の実施報告の掲載数は徐々にではあるが増えている。

職能団体の機関誌は会員の活動を支えるための資源であり、また媒体の発行はソーシャルアクションにつながる活動であるため、直接に間接に、社会福祉の実現に大きく寄与できるものであるといえる。

いずれにしても、広報活動は広報委員会だけで完結するものではなく、全会員に参加していただき作り上げるものである。「こうのとりの通信」の編集方針を策定し、どのような紙面にするかも明文化した。2024 年度は、日本社会福祉士会が策定した「広報戦略グランドデザイン」を参考にし、より参加しやすい広報活動を意識し、広く社会へ発信できる広報に務めていきたい。

## 2 事業報告

- (1) 会員機関誌「こうのとりの通信」の発行  
(年 4 回 No. 118 春号 4 月 No. 119 夏号 7 月 No. 120 秋号 10 月 No. 121 新春号 1 月)
- (2) 広報誌「Pocket」の発行 (Vol. 17 (3 月))
- (3) ホームページ及び Facebook の運営、会員機関誌・ホームページでの広告スペースの提供
- (4) 兵庫県社会福祉士会メーリングリスト(ひよこ ML)の運営  
登録者数：985 件 (2025 年 3 月 31 日現在) 新規登録者数：65 件 (2024 年度)
- (5) 委員会の開催 (6 回)

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場所	内 容
4	14	5 名	Zoom	2024 年度体制、事業内容、こうのとりの通信デザインリニューアル、こうのとりの通信・広報誌 Pocket の企画について
10	4	9 名	Zoom	こうのとりの通信新春号の企画、広報誌 Pocket 特集記事について
11	8	8 名	Zoom	2025 年度事業計画・予算、広報誌 Pocket 特集記事について
12	10	5 名	Zoom	広報誌 Pocket の出稿・校正スケジュール・記事内容について
1	8	6 名	Zoom	広報誌 Pocket 記事内容について
2	12	8 名	Zoom	広報誌 Pocket 校正、次年度委員会体制について

## 1 総括

当委員会では、学んできた理論を実践の場で活用すること、また実践を理論化していくことにより根拠のある支援を行うことを目指している。

2024 年度も学習会を継続的に開催。学びあう姿勢を大切にしながら、ソーシャルワークの在り方を再確認することができた。また、9月にオープン学習会を開催し、委員会メンバー以外の方へ委員会活動を紹介できた。伝える経験により、ソーシャルワーカーとしてのレベルアップの機会となった。

## 2 事業報告

2024 年度も 2 ヶ月に 1 回のペースで委員会と学習会を継続して実施した。

学習会では担当者がテーマを決めて発表を行い、その後、相互に意見交換を行うことで学び合う機会となった。ソーシャルワーカーとしての実践を理論に照らして言語化し、日々の実践を理論に基づいたソーシャルワークとして振り返る。ソーシャルワーカーとしての知識、技術の向上に学びを深める事ができた。

又、活動の実践報告として「社会福祉士会近畿ブロック研究・研修」、及び「調査研究委員会主催 実践報告会」にて発表を行った。更に、研究誌「兵庫県社会福祉士」にて近畿ブロック研究・研修で発表したポスターを掲載し、多くの会員への実践報告ができた。そして、今までの活動を振り返り、現状を把握、今後の活動を検討した結果、2025 年度以降の活動方針、目標を具体的なものにすることができた。これからも会員の専門性の向上のため、多様な研修、新たな研修メニューの実現も視野に入れながら、学ぶ場の実践を探求していきたい。

## 3 委員会開催日 及び 活動実績

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	12	12 名	オンライン+福祉センター	コアメンバー会議 委員会 学習会「行動変容ができた方の支援」
7	14	13 名	オンライン+福祉センター	コアメンバー会議 委員会・学習会「ある後見活動の振り返り～どこまで寄り添うことが本人の支援なのか?～」
10	28	5 名	オンライン	コアメンバー会議
11	5	5 名	オンライン	コアメンバー会議
11	10	10 名	オンライン+福祉センター	委員会・学習会「里親支援について」
1	11	4 名	オンライン	調査研究委員会主催「実践発表会」参加
1	12	8 名	オンライン+福祉センター	委員会・学習会「近畿ブロック大会 ポスター発表 予行練習」
2	8	6 名	会場	近畿ブロック大会 ポスター発表
3	9	10 名	オンライン+福祉センター	コアメンバー会議 委員会・学習会「1 年間の振り返り、来年度の活動に対する期待」

## 1 総括

2024 年度も兵庫県弁護士会と連携し、高年齢者・障害者虐待対応専門職チームを契約市町に派遣し、助言活動や研修講師を担当した。また、専門職チームと契約している市町との間で「虐待対応専門職チームの派遣要請等に関する意見交換会」を2回開催した。この中で、助言の場면을ロールプレイで再現したほか、市町職員と専門職チームのメンバーが直接意見を交わす時間を設けるなど、派遣の意義や活用について理解を深めてもらう取り組みを行った。

虐待防止に向けた取り組みとしては、兵庫県からの受託により、「高年齢者虐待対応力向上研修」「障害者虐待対応力向上研修」を引き続き実施した。対象者の習熟度や所属（行政機関、サービス事業所など）に応じたプログラムを作成し、A研修はオンデマンド形式、B・C・D研修は集合形式に加えオンラインでも開催した。演習を中心とした構成で、通信上大きなトラブルもなく実施できた。

また、本会の「こうのとりの通信」に毎号活動報告を掲載し、当委員会の取り組みを広く発信した。

## 2 事業報告

(1) 高年齢者虐待専門職チーム派遣の契約市町（播磨町、加東市、稲美町、神戸市、多可町、西脇市、南あわじ市、豊岡市、姫路市、丹波市、朝来市、三田市、淡路市 計17市町）と派遣実績

- ・ 契約市町との虐待対応専門職チーム派遣要請等に関する意見交換会：
  - 7/17（ハイブリット開催）14市町が参加
  - 2/5（ハイブリット開催）9県市町が参加
- ・ アドバイザー派遣
 

神戸市	4/26	6/7	10/24	2/4	3/17
豊岡市	4/17				
多可町	4/22				
丹波市	1/31				
加東市	3/12				
西脇市	3/27				

(2) 講師派遣等実績

- 7月4日 【高年齢】神戸市社会福祉協議会 市民後見人養成講座
- 7月24日 【高年齢】神戸市地域包括支援センター・区役所担当職員 初任者対象
- 8月21日 【高年齢】神戸市地域包括支援センター・区役所担当職員 初任者対象
- 8月21日 【高年齢】加東市 ケアマネ、介護サービス事業者職員対象
- 9月11日 【高年齢】神戸市全市 行政職員対象
- 10月4日 【高年齢】神戸市灘区 通所系事業者対象
- 10月11日 【障害】たつの市 法人職員対象
- 10月19日 【障害】加古川市 法人職員対象
- 10月23日 【高年齢】高砂市 地域包括・養介護施設従事者等対象
- 10月28日 【高年齢/障害/児童】神戸市 法人職員対象
- 11月13日 【高年齢/障害/児童】神戸市 法人職員対象
- 11月25日 【高年齢/障害/児童】神戸市 法人職員対象
- 10月29日 【高年齢/障害】朝来市 養介護施設従事者対象
- 10月30日 【高年齢・初動期】神戸市全市 地域包括職員対象
- 11月13日 【高年齢】神戸市 法人職員対象
- 11月21日 【高年齢】神戸市 法人職員対象
- 11月13日 【高年齢】神戸市東灘区 地域包括・居宅・介護事業者職員対象
- 11月20日 【高年齢】神戸市東灘区 行政保健師対象
- 11月21日 【障害】伊丹市 法人職員対象
- 11月30日 【高年齢】神戸市西区 地域包括・居宅・介護事業者職員対象
- 12月1日 【高年齢】神戸市歯科医師会
- 12月2日 【高年齢】神戸市長田区 地域包括、行政対象
- 12月11日 【高年齢】神戸市（全市）地域包括、行政対象
- 12月12日 【高年齢】西播磨後見支援センター 市民後見人対象

- 12月16日 【高齢】神戸市北区 ケアマネ、地域包括、行政対象
- 12月17日 【高齢】神戸市中央区 ケアマネ、地域包括、行政対象
- 12月25日 【高齢】神戸市兵庫区 ケアマネ、地域包括対象
- 1月10日 【高齢】神戸市兵庫区 地域包括、行政対象
- 1月24日 【高齢】神戸市 法人職員対象（リハ・神戸）
- 2月21日 【高齢】神戸市 法人職員対象（リハ・神戸）
- 2月7日 【高齢】神戸市 法人職員対象（ケアプランセンター東神戸）
- 2月5日 【高齢】神戸市 法人職員対象（スマレアカデミー）
- 2月21日 【高齢】神戸市 法人職員対象（スマレアカデミー）
- 2月20日 【高齢】神戸市長田区ケアマネ、施設、医療機関、地域包括、行政対象”
- 2月25日 【高齢/障害】洲本市 高齢、障害支援関係者対象
- 3月14日 【高齢】西宮市 包括支援センター職員対象

(3) 兵庫県弁護士会高齢者虐待対応専門職チームとのワーキング

月	日	会場	内容
4	22	弁護士会館(ハイブリット)	派遣報告、委託研修の実施内容について
5	30	弁護士会館(ハイブリット)	派遣報告、市町との協議について
7	17	弁護士会館(ハイブリット)	契約市町との意見交換会と振り返り、他
8	29	弁護士会館(ハイブリット)	派遣報告、委託研修の実施状況
10	31	弁護士会館(ハイブリット)	派遣報告、委託研修の実施状況
12	25	弁護士会館(ハイブリット)	派遣報告、委託研修の実施状況
2	5	弁護士会館(ハイブリット)	契約市町との意見交換会と振り返り、他

(4) 2024年度高齢者虐待対応力向上研修（兵庫県委託）

月	日	会場名	内容	受講者数
7/16～8/31		オンデマンド開催	(講義) A研修	217名
10	8	兵庫県福祉センター	(講義・演習) B研修	54名
10	16	兵庫県福祉センター	(行政・包括) D研修	25名
11	14	兵庫県福祉センター	(講義・演習) C研修	18名
11	26	兵庫県福祉センター	(講義・演習) B研修	75名
12	12	兵庫県福祉センター	(講義・演習) C研修	40名
R7, 1, 17		兵庫県福祉センター	(行政・包括) D研修	60名
2～3月		オンデマンド開催	(講義) A研修	30名
合計				519名

(5) 2024年度障害者虐待対応力向上研修（兵庫県委託）

月	日	会場名	内容	受講者数
12/10～R7, 2/28		オンデマンド開催	(講義) A研修	957名
9	26	兵庫県福祉センター	(講義と演習) D研修	21名
11	6	兵庫県福祉センター	(応用演習) C研修	70名
11	14	オンライン	(講義と演習) D研修	28名
12	4	オンライン	(応用演習) C研修	78名
合計				1154名

(5) 「高齢者・障害者のための弁護士 電話法律相談」（弁護士会主催）  
毎月第1・3・5火・木曜日 相談員派遣

### 3 委員会等開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	20	10名	Zoom	運営委員会 定例委員会；派遣報告 県委託事業等検討・ワーキング等報告
6	16	13名	Zoom	運営委員会 定例委員会；派遣報告 県委託事業等検討・ワーキング等報告
8	21	16名	Zoom	運営委員会 定例委員会；派遣報告 県委託事業等検討・ワーキング等報告
9	13	15名	Zoom	臨時委員会 新体制について
10	13	12名	対面	運営委員会 定例委員会；派遣報告 県委託事業報告・ワーキング等報告 新体制について
12	22	11名	対面	運営委員会 定例委員会；派遣報告 県委託事業報告・ワーキング等報告、6期メンバー歓迎会
2	26	15名	Zoom	運営委員会 定例委員会； 派遣報告 次年度県委託事業展開について その他

## 1 総括

2024年度は、第二期成年後見制度利用促進基本計画の中間年度に当たり、各市町における中核機関設置などの動きが加速している。ともなう、専門職団体として当会への委員派遣依頼等も増加し、今後もさらなる関係機関とのネットワーク構築が求められている。また、家庭裁判所による事務報告様式等の変更及び業務効率化を図るため従来からの手続き方法が見直される等の動きがあり、それらに対応するための名簿登録者への研修実施、情報伝達等を適宜実施した。

家庭裁判所等からばあとなあ兵庫への後見人等候補者推薦依頼は、2024年度月平均 24件となり、専門職団体として成年後見制度が必要な方々、また関係機関からの期待に応えられるよう質の担保を図ることが益々の課題となってきた。そのためには、会員支援体制の拡充、つまり、各エリアにおけるエリア長、班長の支援体制強化が必要であるし、研修会等を通して後見活動における専門性の向上と受任者支援の体制づくりが重要となっている。今年度についても、全体会をはじめ、各エリアの名簿登録者研修も対面研修とオンライン、ハイブリッド方式を駆使して開催している。

成年後見人材育成研修は昨年同様人材育成部会を中心に事務局、運営委員の協力のもと開催。未成年後見に関しては未成年後見部会を中心に、家裁や児相、児童養護施設との連携を目的とした継続研修、さらに未成年後見人養成研修を実施。徐々にではあるが家庭裁判所からも候補者推薦依頼が入るようになってきている。

また、毎年2月提出の活動報告がIT化され「ばあとなあ活動報告システム」が導入されて今年度で3年目を迎えた。概ね1割弱に運用されているものの課題もあり、引き続き事務局、IT部会、運営委員の協力体制によりスムーズなシステム活用に向けて取り組みを進めている。他に広報部会では、新パンフレット作成への取り組み、研修部会では全体会や会員向け家裁報告書式変更伝達研修を企画、運営した。任意後見部会でも取り組みに対する課題を共有するなど、6つの部会活動をさらに推進し、その役割を発揮することでばあとなあ活動の質の向上に努めている。

成年後見制度を巡る外部環境は大きく変化しつつあり、ばあとなあ兵庫として専門性を生かした役割を発揮する必要がある。そのため、家庭裁判所をはじめ行政機関、他専門職団体等と積極的に連携を図り課題や進捗状況を共有していく。また、中核機関の設置に関しては、兵庫県下において未だ計画の進んでいないところも見られるため、市町との連携等積極的に対応していく。

ばあとなあ兵庫 2024年度月別推薦依頼件数

	2024 /4	5	6	7	8	9	10	11	12	2025/ 1	2	3	合計
依頼	14	20	19	23	19	24	48	29	23	33	16	23	291
推薦	24	14	13	20	24	11	27	36	20	28	25	19	261

## 2 事業報告

### 1 研修会・会議

#### (1) 家裁支部エリア別登録者研修会

ばあとなあ活動の中心であるエリア別研修会を神戸、尼崎、伊丹、姫路、明石・加古川、社、柏原の家裁支部エリア毎に下記のように研修会を開催した。

月	日	開催情報詳細	参加人数
5	19	尼崎エリア（西宮市大学交流センター） 「相談に乗る会と交流会in尼崎エリア」 「精神障害のある当や家族の対応について困ったことはありませんか？」 「交流会：後見実務における豆知識を共有しよう」	45
6	8	明石・加古川エリア（Zoomオンライン） 「後見受任から定期報告までの流れ」	40
6	11	全体会（兵庫県福祉センター＋Zoomオンライン） 「ばあとなあ兵庫の最近の動向」 「成年後見制度の現状と社会福祉士後見人に期待すること」 「社会福祉士&弁護士のライブ講義～ターミネーションとアフターケア～死後事務」	204
7	7	未成年後見小部会（兵庫県福祉センター） 「こころの病気へのチームアプローチを学ぶ」	116

8	7	リーガル&ぱあとなあ合同勉強会 明石・加古川エリア（アスピア明石北館） 「本人死亡後に、財産引継ぎの相手方の判断で迷わないために ～相続人特定と戸籍調査の基本～」	35
8	28	豊岡・社・柏原・龍野・姫路・淡路 エリア合同（Zoomオンライン） 「成年後見制度改革の動向について」	57
9	11	伊丹エリア（宝塚西公民館） 「受任にあたってのあれこれ ～私の体験をもとに～」	30
10	5	尼崎エリア（西宮市大学交流センター） 「事例発表と交流会in尼崎エリア」 「新人さんもベテランさんも、毎日てんやわんや後見活動の事例紹介」	39
10	12	豊岡・社・龍野・姫路・淡路 エリア合同（豊岡市民プラザ） 「介護保険・障害福祉サービスについて サービス利用の流れ等」	10
10	16	未成年後見小部会（兵庫県福祉センター） 「未成年後見事件の動向」	10
10	25	神戸エリア（Zoomオンライン） 「後見人がしっておきたい被後見人の税金の話」	56
11	9	明石・加古川エリア（Zoomオンライン） 「死後の事務って、どんなことをするの！」	46
12	12	神戸エリア（兵庫県福祉センター1F） 終末期における本人のこころとからだ ～被後見人のおもいを汲み取っていくことをACPから考える～	36
1	26	2025年4月施行 家庭裁判所・定期報告新書式への移行説明会 （福祉センター+Zoomオンライン）	217
2	1・2	未成年後見人養成研修（Zoomオンライン）	40
2	6	神戸エリア（Zoomオンライン） 「ぱあとなあの定期報告書の書き方と会員交流会」	44
2	12	明石・加古川エリア（アスピア明石北館） 「家じまい、墓じまいについて」	23
2	15	伊丹エリア（宝塚西公民館） 「利用促進事業に関する取り組みについて」 「報告書作成のポイント」	26
3	22	尼崎エリア（西宮市大学交流センター） 「独立開業について in尼崎エリア」	54
3	23	柏原エリア（丹波篠山市西紀元気ハウス） 「類型の変更について～体験事例を通じた、類型変更の手続きの説明～」	24

(2) 全体会を6月11日（水）にハイブリッド方式にて開催。

- ・講師に神戸家庭裁判所 太田淳子書記官を招き、講演会を開催。  
演題「成年後見制度の現状と社会福祉士後見人に期待すること」
- ・平松弁護士、西川副委員長による「ターミネーション～死後事務」に関するライブ講義実施」に関する講義実施。

(3) 名簿登録研修を12月1日（日）集合研修にて開催。

47人受講。うち44人名簿登録。

(4) 成年後見人材育成研修（認証研修）を開催。

48人受講。46人修了。

(5) 「2025年4月施行 家庭裁判所・定期報告新書式への移行説明会」を1月26日（水）にハイブリッド方式にて開催。参加者217人（会場67人 オンライン150人）

## 2 後見活動報告書の提出と名簿登録

(1) 今年度の期限内未提出者は3名であったが運営委員が提出を促し、受任中の全会員に提出していただいた。

(2) ばあとなあ兵庫名簿登録者は546名。未成年後見追記登録28名。

### 3 家裁への後見人等の推薦、連携状況

今年度は家裁からの推薦依頼が順調に推移し、239件を推薦した。明石市をはじめとする自治体や地域包括支援センターからの依頼は、52件。

概ね奇数月に神戸家裁本庁との定例連絡会が年間4回及び家事連絡協議会が年間1回、共に委員長、副委員長、エリア長が出席した。

### 4 他団体との連携

#### (1) 家裁との連携

#### (2) リーガル・サポートとの連携

エリア別研修会でもリーガル・サポートとの合同勉強会や講師とする取組みを各地で実施した。

#### (3) 講師・委員の派遣

自治体や社協等からの要請により、講師や委員の派遣を行なった。

#### (4) ばあとなあ近畿ブロック会議

ばあとなあ近畿ブロック会議が10月12日（土）にばあとなあ兵庫がホストとなり、Zoomにて開催され委員長、事務局が参加した。

#### (5) 都道府県ばあとなあ

都道府県ばあとなあ連絡協議会が7月28日（日）に開催され、エリア長、事務局が参加した。

#### (6) 三士会との連携

兵庫県下41市町に対して、成年後見人等への送付先変更にかかる窓口一元化要望書提出後のフォローを実施。今後は金融機関への要望、制度改正の動きなども共有し、弁護士会、リーガル・サポート、ばあとなあ兵庫が連携する機会を継続して確保していく。

### 5 その他

(1) 権利擁護に関する相談が事務局に寄せられ、運営委員が対応をした。

## 3 委員会開催日

Zoomミーティングによりオンラインでエリア長会議、運営委員会を開催した。

(6月11日全体会当日の運営委員会は集合開催)

#### (1) エリア長会議

5月24日	8月23日	11月22日	2月28日
12名	10名	14名	14名

#### (2) 運営委員会

6月11日	9月20日	12月20日	3月28日
31名	31名	31名	37名

## 1 総括

2024年度は、コロナやインフルエンザの感染防止対策に留意しながら委員の移動負担軽減にも考慮し、Zoomを活用した委員会活動を行った。地域の感染状況を見ながら、基本的には2023年度を踏襲する形で、委員会の年間事業計画の実践を進めてきた。

地域包括支援センターが実施する地域支援活動も原則コロナ禍前に戻り、日常的には活動への支障も殆ど無くなった活動環境であった。そのため、地域包括支援センター職員が本来業務で担う機能と役割を果たすための基本業務を確認する機会が必要であると判断したこと、地域から寄せられる相談が複雑で多様化した内容であることを踏まえて、今後も継続的な支援を行うために、これまで実践してきた委員会活動を継続する計画を立て、その取組みを確実に達成できるよう委員会メンバーで活動を進めてきた。

地域包括支援センターに配属された新任職員を対象とした、委員会が主催する「初任者研修」のほか、兵庫県の委託事業のテーマを職員自身の課題として捉えた「相談対応力向上研修」とし、チームアプローチの強化や職員の相談場面での対応力向上を目的とした共通研修に加えて、精神障害者を取り巻く問題へのアプローチを学ぶ研修（演習①）、困難事例を解きほぐす全方位型アセスメント研修（演習②）、世帯への対応が求められる現状から「家族」をテーマとした研修（演習③）を開催した。本年度は、研修の構成を、「共通研修・演習①・演習②・演習③」のパッケージとして、リモート研修とオンデマンド型研修との2パターンで開催する方式を昨年度と同様に実施した。感染症の影響と委員会メンバーの負荷も考慮しての運営を継続した。2023年度、オンデマンド型研修を導入したことで、新たに地域包括支援センターに配属された職員向けとして、「地域包括支援センター運営マニュアル」に則った教材を県との協働で作成し、オンデマンド型研修として配信することができ、2024年度も継続して配信した。これらの研修の企画、準備では、プログラムごとにZoomを活用した事前打ち合わせを必須とし、研修効果をより高められるように、担当講師を交えて、委員会スタッフと合意形成を図るよう取り組んできた。

委員会活動を支える委員会メンバーは、Zoomを活用した定例会議を通じて意見交換を図り、お互いを支え合い、高め合ってきた。定例の委員会以外でも、委員会メンバーとはLINEを活用した連絡網を通じて情報共有を常に行っている。また2024年度は、当委員会活動に関心のある会員が1名見学参加された。

## 2 事業報告

- (1) 地域包括支援センター業務に初めて参画する職員向けの初任者研修の開催
  - ・地域包括支援センター初任者研修：令和6年6月18日
- (2) 多様な背景を持つ相談者の課題解決のスキルを向上する相談対応力向上研修の開催（兵庫県からの受託事業）
  - ・オンライン研修：令和6年7月19日～令和6年11月19日（計4回）開催
  - ・オンデマンド版：令和6年12月16日～令和7年3月16日配信
  - ・初任者向けプログラム：令和6年4月1日～令和7年3月16日配信  
「地域包括支援センター運営マニュアル」教材オンデマンド配信
- (3) 委員会メンバーとの情報交換及び各市町の活動状況の共有を目的とした委員会活動の開催（3ヶ月に1回）
  - ・4月以降3か月に1回主にZoomで開催
- (4) 委員会活動（研修等）を通じた新規委員会メンバーの勧誘と受入を実施するとともに、新規会員の確保に貢献する。
  - ・委員会定例会への見学を随時受入れし、委員会メンバーへの参画もあった

## 3 委員会開催日

### (1) 定例会他

月	日	参加人数	場所・開催方法	内容
4	14	7名	Zoom	定例会
5	28	5名	Zoom	「相談対応力向上研修」共通研修打合せ
6	6	5名	Zoom	「初任者研修」打合せ
6	12	7名	Zoom	「相談対応力向上研修」演習①打合せ
7	2	7名	Zoom	「相談対応力向上研修」演習③打合せ
7	8	6名	Zoom	「相談対応力向上研修」共通研修打合せ

7	14	4名	Zoom	定例会
8	5	7名	Zoom	「相談対応力向上研修」演習①打合せ
8	14	8名	Zoom	「相談対応力向上研修」演習③打合せ
8	26	6名	Zoom	「相談対応力向上研修」演習②打合せ
9	13	6名	Zoom	「相談対応力向上研修」演習②打合せ
10	13	7名	ハイブリッド	定例会（担当理事2名参加）
10	16	8名	Zoom	「相談対応力向上研修」演習③打合せ
10	29	7名	Zoom	「相談対応力向上研修」演習③打合せ
1	12	6名	Zoom	定例会
3	17	5名	Zoom	令和7年度「相談対応力向上研修」打合せ

(2) 研修他

月	日	参加人数	スタッフ	開催方法	内容
6	18	24名	5名	Zoom	地域包括支援センター 初任者研修
7	19	28名	6名	Zoom	相談対応力向上研修 共通研修
8	20	37名	6名	Zoom	相談対応力向上研修 演習①
9	24	30名	5名	Zoom	相談対応力向上研修 演習②
11	19	33名	7名	Zoom	相談対応力向上研修 演習③
12/16	～3/16	17センター	—	オンデマンド	相談対応力向上研修 オンデマンド版
4/1	～3/31	32名	—	オンデマンド	相談対応力向上研修 初任者向けプログラム

\*相談対応力向上研修受講者 : 実人員 79名 延人員 128名 (資料代入金者 延 135名)

## 1 総括

2024 年度も引き続き、委員会活動を不定期となったが、オンラインで開催した。必要な感染対策をとりつつ認証研修スクールソーシャルワーカー養成研修や幼保連携型認定こども園との交流学習会など、立ち止まることなく委員会活動を継続できたことは成果である。年間を通じて委員会見学の問い合わせが多く、あらたにこども家庭支援委員会の委員として共に活動できる仲間が常が増えていくことは大変うれしく感じる。加えて、児童家庭分野に関する支援の関心の高さに、こども家庭支援委員会が担う責任をあらためて感じている。

わが国においても諸外国からかなり遅れ、子どもの権利条約を受けて、子ども家庭庁の設置、子ども基本法の制定等、子どもを中心に意思表示支援のできる社会作りが始まったばかりである。昨今の少子高齢化、物価高騰等の社会情勢やアフターコロナの影響、ヤング若者ケアラー支援等、ますます子どもや家庭への支援が必要とされている。

子ども家庭支援の分野は、子どもが抱える要因とその置かれた環境による背景要因が、複雑に絡み困難な状況となっていることも多い。子ども家庭分野におけるソーシャルワークは、よりジェネラルな視点とスペシフィックな専門性が求められる。こども家庭支援委員会では、このような専門性を支える研修企画運営や委員から提案されるテーマについての活動を充実発展させつつ、委員一人ひとりの得意分野と強みと熱い想いを活かし、子ども・家庭支援や社会に貢献できる活動をさらに展開しすすめていきたい。

## 2 事業報告

- (1) 委員会定例会 不定期開催 計 4 回（下記「委員会開催日」参照）
- (2) スクールソーシャルワーカー養成研修（オンライン、認証研修）
  - 令和 6 年 4 月 27 日（土）9：30～16：45（講義）
  - 28 日（日）9：30～16：45（講義・演習）
  - ところ：兵庫県福祉センター
  - 講師：福田公教 氏（関西大学 人間健康学部）、
  - 大塚美和子 氏（神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授）、他 3 名
  - 参加者：40 名
- (3) 加東市幼保連携型認定こども園 「たきの愛児園」との交流学習会（委員会内勉強会）
  - 令和 7 年 2 月 18 日（火）10：30～12：30
  - 講師：たきの愛児園園長 岸本 梓 氏
  - 参加者：3 名

## 3 委員会開催日（オンライン実施）

月	日	参加者	内 容
4	23	12 名	委員近況報告・情報交換、SSW 養成研修打ち合わせ
7	1	13 名	SSW 養成研修振り返り、委員会内学習会企画、情報交換、
9	19	11 名	今年度の事業計画・予算の執行状況、委員会内学習会企画、情報交換
3	26	13 名	次年度役員体制、情報交換、幼保連携型認定こども園見学学習会振り返り

## 1 総括

2024 年度は、2023 年度より取り組みを始めた、実習指導者を対象としたオンライン交流会を継続実施し、実際の実習での困りごとなどを共有する場を設けた。参加者には概ね好評であったので、今後も継続して行く。

「社会福祉士実習指導者講習会」は毎年 1 回の開催を継続しており、講習会の内容自体が 2023 度より一新されたが、時間配分が不足気味だった実習プログラミング論について時間調整を行いスムーズに行えた。開催方法は引き続き 1 日目を Zoom・2 日目を集合形式で行うとともに、実習スーパービジョン論の日程を 2 日間に分け人数の分散を図り、113 人が修了した。ここ数年は 150 名ほどの申込が続いており、受講者を選考している状況である。需要に応える為、次年度以降、受け入れ定員拡大の検討が必要と思われる。

## 1 事業報告

### 『社会福祉士実習指導者講習会』

月	日	参加者	場所	内容
11	2	113 名	Zoom	実習指導概論、実習マネジメント論、実習プログラミング論
11	3	57 名	兵庫県福祉センター	実習指導実践内容報告、実習スーパービジョン論
12	8	56 名	兵庫県福祉センター	実習指導実践内容報告、実習スーパービジョン論

### 『近畿ブロック実習担当者会議』

月	日	参加者	内容
6	1	1 名	第 1 回 実習指導者講習会について 近畿ブロック大会について
10	20	3 名	第 2 回 実習指導者講習会について
2	15	1 名	第 3 回 実習指導者講習会について

### 『委員会開催』

月	日	参加者	内容
5	15	7 名	第 128 回 (2024 年度第 1 回) 委員会 養成校連絡会について 委員会規程について 委員会体制について
6	29	4 名	第 129 回 (2024 年度第 2 回) 委員会 委員長交代について 委員会体制について
2	27	7 名	第 130 回 (2024 年度第 3 回) 委員会 事業計画について

### 『実習指導者オンライン交流会』

月	日	参加者	内容
12	8	25 名	実習の困りごと・実習を受けたことによる成果等、情報交換

## 1 総括

2回の研修の開催とメールマガジンの配信が活動主体となった。

実践報告会は、地域での活動を主眼に置いた実践をされている県内外の独立型社会福祉士として、京都社会福祉士会と本会会員の各1名ずつに登壇・対談、グループワークにより内容を深め、地域における独立型社会福祉士の多様な展開と可能性を感じてもらえる場を提供できた。

倫理研修会は、倫理綱領を基盤とし、「ミクロ・メゾ・マクロ」それぞれの視点で事例をグループワークにて検討してもらったことで、より実践的な学びを深めることができた。

メールマガジンは、今年度は2回配信を行った。研修開催報告や活動紹介、コラム、おすすめ図書、出会いのポエムなど幅広い情報を登録会員へ提供することができた。

1年を通じて委員会見学者が多く、そのなかで5名が委員会活動に参加されることとなり、より活発な活動が期待される。

定例会は基本オンラインで開催したが、研修の準備打合せに時間を要することが多くなり、実施回数が月1回ペースに増えた。研修企画・開催が委員会活動の主になっているといった課題も浮き彫りとなっていることで、独立型社会福祉士又はそれを目指す者への支援や独立型社会福祉士になるための新たな支援を検討したことが理由として挙げられる。次年度に向けての方向性として、①他の委員会との繋がりを深める ②全国他府県の社会福祉士との交流を図る ③ビジネスモデルとして独立型社会福祉士を考える の3点について次年度も実施と検討を並行していく。

## 2 事業報告

月	日	参加者数	場 所	内 容
11	9	34名	Zoom	実践報告会（県内外2名による実践報告、グループワーク）
2	11	16名	福祉センター	倫理研修会（「ミクロ・メゾ・マゾ」事例グループワーク）

月	日	登録者数		内 容
1	5	88名	dommML	メルマガ「夢ふうせん」vol.41
3	8	88名	dommML	メルマガ「夢ふうせん」vol.42

## 3 委員会開催日

月	日	参加者数	場 所	内 容
4	18	9名	Zoom	委員紹介、年度活動確認、委員会規程・生涯研修センターについて
6	7	9名	Zoom	委員会規程見直し、実践報告会について
6	22	11名	福祉センター	実践報告会について（開催日程・場所・テーマ・登壇者選定など）
8	22	13名	Zoom	実践報告会・登壇者を招いてオリエンテーション、担当理事について
9	14	10名	Zoom	2025年度の活動内容について検討
10	15	9名	Zoom	他委員会動向、実践報告会の最終調整・役割分担、メルマガ配信など
11	9	9名	福祉センター	実践報告会の振り返り（Wi-Fi不具合、その他反省点など）
11	15	9名	Zoom	2024事業計画・予算案、倫理研修会について
12	19	8名	Zoom	メールマガジン配信、倫理研修会の内容、日時について
1	21	8名	Zoom	メールマガジン配信、倫理研修会・事例内容について
2	20	9名	Zoom	倫理研修会（役割分担、スケジュール確認、内容確認）
3	20	14名	Zoom	次年度役員承認、活動継続意思確認、2025年度活動内容について

## 1 総括

委員会は、会場とオンラインを併用して開催している。休会委員へもメールを継続し、いつでも復帰できるような体制をとっている。4月以降5名の入会があり、4名の見学希望が入っている。定例委員会では福祉の様々なところで活躍する委員によって、受講した研修内容の報告や障がい関係サービスに関する情報交換、意見交換を行った。

また、台風の影響で予定を約1か月延期して、今年度1回目の意思決定支援に焦点を当てた拡大学習会を開催できた。アンケート結果も回収し、全般に高評価で特にグループワークに好意的な意見が多かった。結果については今後の学習会のテーマ設定の参考にしたい。

## 2 事業報告

委員会は2か月に1回のペースで、第2日曜日に開催している。

日程	人数	場所	内容
4月14日	9名（内2名 Zoom） 見学1名含む	東部在宅支援センター	委員会
6月9日	10名（内4名 Zoom） 見学2名含む	東部在宅支援センター	委員会
8月11日	9名（内3名 Zoom）	東部在宅支援センター	委員会・研修打ち合わせ
9月29日	9名	兵庫県福祉センター	委員会・研修振り返り
10月13日	7名（内3名 Zoom） 理事対応1名 Zoom 含む	東部在宅支援センター	委員会
12月15日	10名（内3名 Zoom） 見学1名含む	東部在宅支援センター	委員会
2月9日	9名（内3名 Zoom） 見学2名含む	東部在宅支援センター	委員会

### 9月29日 拡大学習会

「障がい者の意思決定支援～個人モデル・社会モデル・人権モデルの視点から」

講師 植戸貴子（神戸女子大学教授）

会場参加者 20名（兵庫県福祉センター） Zoom 参加者 10名（スタッフ8名）

## 1 総括

入口支援（捜査・公判段階）の対象者支援を強化すべく、ここ数年は弁護士と共同し、フォレンジック・ソーシャルワーク研修を開催している。留置場での接見場面を設定し、更生支援に関する知識の定着や実践場面での活用を意識した企画を行えた。支援対象者の特性を理解している弁護士が被疑者、被告人役に扮して実践を言語化し、対象者の特性理解や生活課題を中心に、居場所の確保や日中活動の提案に向けた方策を検証した。

施設参観は、姫路少年刑務所に伺った。本刑務所は、再犯者等、犯罪傾向が進んだ概ね 26 歳までの青年を入所させ、更生に導く刑務所である。そこで実際に行われる刑務作業や生活場面を見聞きする参観を企画した。収容者が実際に仕事をしている作業棟や処遇されている舎房を見学し、塀の中の実情を知り社会復帰に向けた取り組みが進んでいる様子を刑務官や作業専門官から直接聞く機会をつくった。2025 年 6 月から拘禁刑の創設に向け、刑務所の社会復帰に向けた取り組みや処遇上の連携先として、社会福祉に求められる期待も大きいことを認識した。

当委員会では、2 年前より弁護士会と共同し、支援福祉職名簿を作成することで県内で支援を要する更生支援対象者の生活再建に向けて取り組みを続けている。引続き関係機関や各種専門職と顔が見える関係性を保ち、県民の安全と安心に向けた取り組みを続けていきたい。

## 2 事業報告

2024 年 6 月 5 日（水） 13:30～15:30 姫路少年刑務所参観

2024 年 11 月 24 日（日） 13:30～16:30 フォレンジック・ソーシャルワーク研修開催  
各月 1 回（弁護士会 PT 会への参加）

支援福祉職名簿の作成、11 月頃～翌年 2 月頃にかけて新規登録及び変更。

支援福祉職名簿を基に案件受任ケースの支援及び内部検討など。

その他付随する支援や事務。

## 3 委員会開催日

奇数月 第 3 金曜日に委員会を開催。

月	日	場 所	人数	学習内容
5	17	Zoom	13 人	リーガル・ソーシャルワーク研修報告
7	19	Zoom	17 人	刑事弁護の基礎知識
9	20	Zoom	15 人	懲役受刑者の年金受給
11	24	対面	19 人	フォレンジック研修後の対面委員会
1	17	Zoom	13 人	来年度の予算及び体制
3	21	Zoom	14 人	帰住先のない釈放者への居住支援について

## 1 総括

総務会内に設置された退院支援アドバイザーを支援する「退院支援チーム」を2014年度より地域移行支援委員会と名称を改め委員会活動となった。

集合およびオンラインを活用して、ハイブリッド式にて委員会活動および専門研修を開催した。

また、神出病院（神戸市）や滝山病院（東京・八王子市）の精神科医療の現場で起こった入院患者に対する虐待事案や身体拘束問題について、学習や協議を継続するとともに、兵庫県精神保健福祉士協会等の関係団体からの後援を得て研修会を開催し、専門職、当事者、家族会等と幅広く意見交換を行った。

## 2 事業報告

- (1) 退院支援員（社会福祉士）に対する助言、支援
- (2) 退院支援や地域移行に関する専門研修の企画、調査研究活動
- (3) 委員会の開催、退院支援員の活動報告及び各委員からの情報交換を行った。
- (4) 地域移行に関する専門研修の実施

2025年11月30日（土）13時30分～16時30分（ハイブリッド式）

内容：病院から地域へアクトゼロ岡山の取り組み

講師：藤田大輔先生（大和診療所・岡山県）

参加者：25人

- (5) 精神科病院等における虐待問題を考える7団体協議への参加  
精神保健福祉士協会、医療ソーシャルワーク協会、弁護士会、家族会、精神医療人権センターとの合同会議へ参加し、虐待問題について定期的に協議を行っている。

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	23	7名	ハイブリッド式	情報交換、学習会の検討
7	25	6名	ハイブリッド式	情報交換、学習会の検討
9	26	6名	ハイブリッド式	情報交換、学習会の準備
11	28	7名	オンライン式	情報交換、学習会の準備
1	30	7名	ハイブリッド式	情報交換、次年度の事業検討
3	27	7名	ハイブリッド式	情報交換、次年度の事業検討

## 1 総括

2015 年度に施行された生活困窮者自立支援法は、支援の対象者を限定せず、経済的だけでなく、社会的に孤立している人に対して、生活上の課題が複雑化、深刻化する前に、どのような解決方法があるのかをいわゆる「伴走型支援」により一緒に考え、自立促進を図ることを目指している。

国は、地域住民の複合化・複雑化した支援ニーズに対応する市町村における「包括的な支援体制」の構築を推進するために社会福祉法を改正し、身近な自治体で①「断らない相談支援」、②参加支援、③地域づくりに向けた支援を一体的に進めており、自治体により取り組みの差があるが、さらに整備が加速していくものと思われる。

当委員会では「包括的支援体制整備」について、地域で生活する上での課題解決に向けて、社会資源の創造をテーマに研修会を企画したが、「最低催行人数」に達しなかったため延期となり、今年度開催された近畿ブロック研究研修大会におけるシンポジウム等の企画に引き継がれ実施された。

また、認証研修「滞日外国人ソーシャルワーク研修」は当委員会が中心になり、隔年で開催しているが、今回は、オンライン形式で開催し、全国から 26 名の参加者があった。

なお、旧ホームレス支援委員会から継続してきた武庫川河川敷での相談会は、今年度 2 回開催されたが、対象者の減少が続いており、いったん今年度をもって終結することとなった。

## 2 事業報告

- (1) 定例委員会での情報提供や現場からの課題の報告
- (2) 旧ホームレス支援委員会からの継続事業への協力
- (3) 地域包括支援体制重の推進に関する情報提供、研修の実施
- (4) 地区ブロック活動との連携・阪神ブロックへの情報提供

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	7	8名	福祉センター201号室 および Zoom	1. 参加者報告 2. 協議事項～2024年度事業について (1) 定例会の内容について (2) 滞日外国人 SW の準備について
6	2	8名	福祉センター201号室 および Zoom	1、協議事項 (1) 認証研修「滞日外国人 SW」について (2) :地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーク実践力養成研修（兵庫県版）への協力について (3) その他 報告) 武庫川相談会 5 開催 委員会より 5 名参加
8	4	7名	Zoom	1 協議事項 (1) 定例会の在り方について 意見交換 その他 各委員の近況報告など
10	6	11名	Zoom	協議事項 (1) 9/7. 8 認証研修 滞日外国人 SW の報告 (2) 担当理事事との懇談から 今後の委員会検討 (2) 今後の予定について
12	1	6名	福祉センター201号室	協議事項 (1) 2025年度事業計画・予算について (2) 報告 武庫川相談会最終回 (11/16)
2	2	9名	福祉センター201号室 および Zoom	(1) 2025年度委員会定例会・事業計画・予算について

## 1 総括

2024 年元旦発生の能登半島地震において、石川県士会からの依頼を受け現地支援が動きだしたのが 4 月下旬からで、年度当初はあわただしく日本士会・石川県士会と近畿ブロック各県士会との連絡調整を実施した。災害支援のあり方は年々変化しているが、1.5 次避難所などの避難形態においても、避難所運営のあり方においても、被災者支援の手法においても、新たな課題を感じる 1 年であった。

「災害に強いソーシャルワーカーになろう！」を委員会活動の合言葉として、「このとり通信」に委員会発信記事の連載を始め、広報部会の活動が明確になった。また、「1.17 ひょうご安全の日イベント」に初めて出展し、避難行動要支援者に対する個別避難計画の重要性など、発災後の支援に留まらず平時から広く住民が取り組む防災活動について直接県民に伝えることができたことは、社会福祉士の防災活動のあり方を考えるきっかけになったと考えている。

全国的に DWAT 養成が始まり、兵庫県主催の養成研修に 10 人の委員が受講した。今後は DWAT 隊員のネットワーク作りなどにも関わっていききたい。

## 2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
4 月	下旬～	9 人	金沢市 社会福祉協議会	能登半島地震被災者見守り相談支援事業参加
10	27	5 人	明石市西二見小学校	明石市二見西地区防災フェア、講演 1 時間出講と障害体験ワークショップ参加
11	9	5 人	相生市	兵庫県 DWAT 養成基礎研修（相生会場）受講
11	23	5 人	明石市	明石市主催「ひなんサポーター研修」講義・演習出講
11	30	5 人	南あわじ市	兵庫県 DWAT 養成基礎研修（南あわじ会場）受講
1	17	7 人	HAT 神戸	1.17 ひょうご安全の日イベント出展
1	24	4 人	兵庫県災害対策センター	兵庫県「要配慮者支援・個別避難計画市町意見交換会」運営参加
2	16	1 人	岡山市	試行研修「DWAT 実践研修基礎編（岡山会場）受講
2	22	5 人	神戸市	試行研修「DWAT 実践研修基礎編（兵庫会場）受講

## 3 委員会開催日

月	日	曜日	参加人数	内 容
5	7	火	オンライン 13 人出席 12 人見学	委員会規定の修正・能登半島支援 現地報告・能登半島支援活動者派遣のルール
7	2	火	オンライン 15 人出席	能登半島支援活動の申し込み方法・このとり通信「防災いいな」第 1 号（2024 年 10 月 10 日発行）
8	31	土	オンライン 16 人出席 1 人見学	このとり通信「防災いいな」第 3 号（2025 年 1 月 10 日発行）・委員会企画研修について（主に兵庫県防災士会との連携について）
11	5	火	オンライン 17 人出席	来年度の計画・能登半島支援・「明石市二見西地区防災フェア」協力・兵庫県 DWAT 養成研修・明石市ひなんサポーター研修
3	4	火	オンライン 11 人出席 1 人見学	2024 年度活動実績・NHK『明日をまもるナビ』紹介の「防災対応力向上シート」・2025 年度事業計画

## 1 総括

広く県民の方が利用できるよう、利用対象の拡大を図るとともに、2013年4月より愛称「福祉相談センター ここねっと兵庫」として事務局職員（相談員・ばあとなあ業務兼務）を配置して行った。

相談件数は少ないため、今後さらに福祉相談センターの周知を図る必要がある。また、総合的な相談が増加し、構成委員会との連携を強化するとともに、包括的な取り組みができるセンター機能の向上が必要となってきた。

## 2 事業報告

(1) 毎日の相談受付と相談業務（構成委員会と連携を図りながら相談員による回答を行う）

構成委員会メンバー

- ① ばあとなあ兵庫
- ② ソーシャルワーク研究委員会
- ③ こども家庭支援委員会
- ④ 高齢者・障害者虐待対応委員会
- ⑤ 地域包括支援センター支援委員会
- ⑥ 生活困窮者支援委員会
- ⑦ 障がい福祉委員会
- ⑧ 更生支援委員会
- ⑨ 研修委員会

(2) 相談件数 20件

## 1 総括

2024年度は、社会福祉士としての専門性を維持・向上させるための研修機会を提供するという、生涯研修センターの役割に基づき、計画された各種研修を実施した。基礎研修および認証研修の実施を通じて、職能としての継続的な学びの場を提供し、参加者の実践力向上を支援した。

一方で、一部の研修では受講者の確保が難しく、研修テーマの選定や周知方法、開催時期などに関する課題も明らかとなった。

また、4年ぶりに運営委員会を再開し、センターの機能や役割の再確認と、今後の持続的な運営に向けた体制づくりにも着手した。

生涯研修は、社会福祉士が時代や現場の変化に応じて学び続けるための重要な仕組みであり、今後も会員の専門性と倫理性を高める研修体系の整備を進めていく。

## 2 事業報告

### ① 運営委員会

- ・2024年度第1回生涯研修センター運営委員会開催
- ・日時：2025年1月12日（土）14：00～16：00
- ・場所：兵庫県福祉センター202会議室/Zoom
- ・内容等
  - ▶委員会・ブロック主催研修等の情報交換
  - ▶生涯研修センターの設置目的や機能の確認、今後の方向性についての意見交換
  - ▶会議室予約ルール・謝金規定等確認

### ② 研修事業

#### ◎基礎研修

研修名	受講者数	実施形式等
基礎研修Ⅰ	91（82名修了）	オンライン形式（3回）
基礎研修Ⅱ	63（55名修了）	オンライン形式（9回）・集合形式（2回）
基礎研修Ⅲ	65（58名修了）	オンライン形式（9回）・集合形式（2回）

#### ◎認証研修

研修名	受講者数	実施形式等
SSW 養成研修	41名 （25名認証修了）	2024年4月27日（土）～28日（日）
成年後見人材養成研修	46名	2024年8月4日（日） 2024年9月11日（水） 2024年10月14日（月） 2024年11月2日（土） ※名簿登録研修 2024年12月1日（日）

#### ◎日本社会福祉士会からの移管研修

研修名	受講者数	実施形式等
地域共生社会ソーシャルワーカー養成研修	13名	2025年3月2日

#### ◎その他

研修名	受講者数	実施形式等
ソーシャルワーク5団体合同研修	会場8名、オンライン43名（計51名）	2024年11月23日（土・祝）
ファシリテーター養成研修	14名 （うち録画視聴2名）	2024年4月14日（日）

### 3 会議等開催実績

◎生涯研修センター担当理事会議【実施形式はすべてオンライン】

開催日	内容等
第1回 2024年8月6日(火)	生涯センターの役割・機能の確認
第2回 2024年8月28日(水)	地域共生社会研修後援について
第3回 2024年9月11日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生社会研修のチラシ修正</li> <li>・講師謝金ルールの確認</li> <li>・センター運営体制について</li> </ul>
第4回 2024年9月23日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生研修について</li> <li>・運営会議について</li> <li>・委員会主催研修について</li> </ul>
第5回 2024年11月5日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度に向けた事業計画・組織見直し</li> <li>・研修の年間スケジュール化・委員会支援体制の明確化について</li> <li>・認証研修の目的や対象整理、参加者確保の課題共有</li> </ul>
第6回 2024年11月24日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ジェネラリストSW実践研修」についての提案と検討</li> <li>・倫理綱領伝達研修の今年度実施に向けて</li> </ul>
第7回 2024年12月4日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の事業計画</li> <li>・運営体制強化に向けて協議</li> </ul>
第8回 2024年12月25日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画・予算について</li> <li>・ジェネラリストSW研修について</li> <li>・倫理綱領伝達研修</li> </ul>
第9回 2025年1月7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月12日の運営会議の進行確認</li> <li>・2025年度の研修予定の確認、研修開催時の課題共有</li> <li>・共催・後援の取り扱いに関するルールの必要性について</li> </ul>
第10回 2025年3月12日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯研修センターの機能整理・今後の役割の再定義</li> <li>・研修開催に関する進捗確認、基礎研修運営チームの検討</li> <li>・ジェネラリストSW研修・自殺予防研修についての確認</li> </ul>
第11回 2025年3月26日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院MSW倫理綱領研修について</li> <li>・基礎研修の運営について</li> </ul>

会議名	日時	実施内容等
倫理綱領伝達研修に関する会議	2025年2月8日(土)	社会福祉士近畿ブロック参加の倫理綱領伝達研修倫理綱領・行動規範講師養成研修受講者が集合し、倫理綱領伝達研修実施に向けて協議
基礎研修講師調整会議	2025年3月8日(土)	2025年度の基礎研修講師調整等

### 4 その他、生涯研修にかかる事業

事業等	内容等
スーパービジョン開講	15名
倫理綱領伝達研修倫理綱領・行動規範講師養成研修受講者推薦	倫理綱領伝達研修の実施に向け、日本社会福祉士会が実施する研修に7名推薦
スーパーバイザー養成研修受講推薦	2名
基礎研修修了生の組織化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研修OB会10期生組織化</li> <li>・基礎研修OB会全体会(6月29日(土)) 1～9期生対象：43名</li> <li>・基礎研修OB会活動の支援</li> </ul> 8期生：1月19日(日)ランチ会 12名 9期生：1月13日(月)ランチ会 14名 10期生：11月9日(土)交流会 16名

## 1 総括

毎年、本会及び兵庫県介護福祉士会、兵庫県介護支援専門員協会、兵庫県精神保健福祉士協会、兵庫県医療ソーシャルワーカー協会の5団体が協働して開催している。

2024年度においては新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、2019年度に開催して以降、5年ぶりに会場での開催ができた。会場はあかし市民広場で開催。かなりの道行く人が立ちよったことで、ソーシャルワーカーの認知度を向上させることができた。

## 2 事業報告

### (1) ソーシャルワーカーデー2024 in ひょうご

日時：2024年7月27日（土）10：30～16：00 参加人数：延べ約2000人

会場：あかし市民広場

主催：兵庫県社会福祉士会、兵庫県介護福祉士会、兵庫県精神保健福祉士協会、  
兵庫県医療ソーシャルワーカー協会、兵庫県介護支援専門員協会

内容：ソーシャルワークに関する啓発イベントを行うとともに、関係する各団体・機関の一層の連携強化を図り、それぞれの活動の相互支援を目指した。ソーシャルワークに関する「体験」「遊び・学び」「相談」それぞれの取り組みを県民ほかに提供した。

また、新たな試みとして、県内養成校3校の学生に企画運営に加わってもらった。  
社会福祉士会からの参加スタッフ：20名

## 3 会議開催日

ソーシャルワーカーデー2024in ひょうご担当者会議 開催日

月	日	場 所	内 容
4	16	Zoom	ステージ、協賛企業、チラシ、後援、学生企画、各団体ブース
5	2	Zoom	ステージ、協賛企業、チラシ、後援、学生企画、各団体ブース、 会場レイアウト
5	20	Zoom	チラシ、会場レイアウト、役割分担、必要人員、準備物品、協賛企業、 後援、学生企画、各団体ブース
6	3	Zoom	学生スタッフ会議 企画、ブース
6	26	Zoom	荷捌き場、各団体スタッフ人数、役割分担、各団体ブース、ステージ プログラム
7	1	Zoom	学生スタッフ会議 当日の体制、ラリー用紙デザイン、クイズ・スタンプラリー、 養成校PRコーナー
7	12	Zoom	自主警備計画、臨時出店届、会場レイアウト
7	18	Zoom	スタッフ役割分担、掲示物・印刷物、レイアウト、緊急連絡
7	20	兵庫県福祉センター	ミニ講座準備、景品準備
8	9	Zoom	今回の振り返り、次年度以降の開催について

## 1 総括

2024年度は、前年度に行った会員アンケート結果や各委員会のヒヤリングなどによって当会の組織の課題を確認し、今後の在り方についての話し合いを重ねた。前年に引き続き、新入会員説明会(旧はじめのいっぽ)を新入会員必須研修と位置づけ、会員の定着と会活動の理解を深める機会を今年度も実施した。また社会福祉士国家試験受験者に対して会の加入案内チラシを配布するなどして新規会員加入促進活動を行った。

## 2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
3	22	46名	兵庫県福祉センター	新入会員必須研修

## 3 会議等開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	11	4名	Zoom	2024年度組織力向上計画について(協議)
5	10	4名	Zoom	2024年度組織力向上計画について(協議)
6	1	8名	福祉センター	組織の在り方検討会
8	8	8名	Zoom	組織力向上担当理事再編につき前年度までの取り組み説明
9	5	7名	Zoom	委員会ヒヤリング内容について
9		各2名～	Zoom・面談	各委員会代表からのヒヤリング実施
11	6	4名	Zoom	新入会員必須研修について 入会促進取り組みについて
12	5	4名	Zoom	2025年事業計画予算について 組織体制について
1	9	6名	事務局	ばあとなあ委員長他との情報交換
2	2	2名	試験会場	入会案内チラシ配布
2	6	7名	Zoom	組織体制と中期計画について 新入会員必須研修について
3	6	4名	Zoom	組織体制と中期計画について 新入会員必須研修について

## その他兵庫県・神戸市等からの受託事業

### 住宅確保要配慮者居住支援事業

#### 1 概要

住宅確保要配慮者の住まい確保を含む居住支援を行っている団体の発掘及び育成を図ることを目的とした「平成 29 年度ひょうご居住支援団体発掘・育成支援事業」への応募に端を発する。その後、住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律（通称：新たな住宅セーフティネット法）に基づく、「居住支援法人」に 2018 年 5 月 31 日に兵庫県より指定された。当会が実施する主な居住支援業務は、円滑な入居の促進に関する援助（入居前支援）である。

2019 年度から国の補助金（居住支援協議会等活動支援事業）を継続して受け、住宅確保に課題を抱える人への相談支援を実施している。

#### 2 事業報告

(1) 平日の 10 時から 16 時まで電話相談窓口（専用電話番号あり）を本会事務局内に設置し、相談支援員を常時配置した。

- ・延べ相談対応件数：589 件（前年度 365 件）、新規相談実人数：96 人（前年度 95 人）
- ・直接支援による入居相談解決件数（住居確保件数）：23 件（前年度 15 件）

相談者の属性は 31.2%が高齢者、26.0%が精神障害者である。また、相談者の 39.5%が生活保護受給者や生活困窮者といった低所得者である。複合的な福祉ニーズを抱えている方の相談も多く、緊急連絡先のない孤立している方が大半で、住居確保する際の壁となっている。

相談は 45.8%が本人や親族からで、54.2%が行政（主に生活保護の担当窓口）や地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、病院などの支援機関からである。地域は神戸・阪神間からが多く、神戸・阪神・東播磨からの相談が大半を占めている。

本人を取り巻く支援者ら関係機関と連携しながら、生活課題や転居の際に必要なニーズを整理し、同行支援等を実際に行って住まい探しを行うケースの他、相談者である支援者らに対して、住まい探しを行ううえでのポイントや相談先などの助言を行った。緊急性や地域によっては他の居住支援法人を紹介した。

他の居住支援法人との連絡会である「ひょうごん福祉ネット居住支援連絡会」に加入し会議に参加したほか、兵庫県居住支援協議会の研修の 3 回参加した。

### 障害者差別解消相談センター事業

#### 1 概要

2016 年度より始まったこの事業は、障害者差別解消法第 14 条の規定により、障害者差別に関する紛争の防止や解決に必要な体制を整備するための事業である。県障害福祉課内に「障害者差別解消相談センター」を設置し、県職員とともに経験のある福祉専門職が、障害者等からの相談等に対応するものである。

#### 2 事業報告

本会と兵庫県精神保健福祉士協会から、1 日 1 名の相談員を県に派遣した（平日 10～16 時）。

本会からは 14 名の会員が障害者等からの電話相談に対応するとともに、社会資源等の案内を行った。また、9 月 30 日には兵庫県障害福祉課主催の「差別解消相談センター相談員連絡会議」に参加した。

# 医療的ケア児等コーディネーター養成研修等事業

## 1 概要

医療技術の進歩等を背景として医療的ケア児が増加している状況を踏まえ、医療的ケア児が地域において必要な支援を受けることができるように、関係機関との連携調整を行うための体制整備をすることを目的に国が定めたカリキュラムに基づく研修（「医療的ケア児等支援養成研修」及び「医療的ケア児等コーディネーター養成研修」）及び医療的ケア児等コーディネーターのフォローアップ研修を実施した。

なお、計画相談支援事業所及び障害児相談支援事業所が「要医療児者支援体制加算」を得るには、「医療的ケア児等コーディネーター養成研修」を修了した相談支援専門員を配置する必要がある。

## 2 事業報告

### (1) 医療的ケア児等支援者養成研修

受講対象は相談支援専門員、行政職員、訪問看護師、児童発達管理責任者、障害福祉サービス事業所従業者、医療機関等従業者、保育所・幼稚園・学校・特別支援学校等で医療的ケア児に関わる者など地域の事業所等において医療的ケア児等への支援に従事している者。

「総論」「医療」「福祉」「連携」「ライフステージにおける支援」全5科目の講義をそれぞれ動画収録し、受講生へ周知。視聴確認として事後課題を設定し、期日までに提出し、基準を満たした者を本研修の修了者として修了証を交付した。

開催日（視聴期間）	開催方法	修了者数	受講者数
6月1日（土）～6月30日（日）	オンデマンド配信	390名	433名
11月1日（金）～11月30日（土）		209名	240名

### (2) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修

受講対象は「医療的ケア児等支援養成研修」を修了した者であり、相談支援専門員、市町担当職員、訪問看護ステーション看護師、児童発達支援センターや重症心身障害児通所支援事業所児童発達管理責任者などの医療的ケア児等コーディネーターの役割を担う者。

講義「医療的ケア児等コーディネーターに求められる資質と役割」「本人・家族の思いの理解、アセスメント」「支援体制整備」、演習「本人・家族の思いの理解、アセスメント」「連携支援」「計画作成」「支援体制整備」等を会場にて、「自立支援協議会」「スーパービジョン」などの講義をZoomミーティングで実施。全てを受講した者に修了証を交付した。

開催日	会場	修了者数	申込者数
10月26日（土）、10月27日（日）	姫路市総合福祉会館	100名	138名
10月28日（月）	Zoomミーティング		
2月18日（火）、2月19日（水）	兵庫県福祉センター	83名	133名
2月20日（木）	Zoomミーティング		

### (3) 医療的ケア児等コーディネーター・フォローアップ研修

医療的ケア児等コーディネーター養成研修の過年度修了者による取り組み報告（訪問看護ステーションでの医療的ケア児等コーディネーターの取り組み、保育所等訪問支援事業でのリハビリテーション職としての取り組み）、その他参加者からの情報共有及び意見交換会を実施した。

開催日	開催場所	参加者数	申込者数
12月19日（木）	Zoomミーティング	97名	102名

# 「誰一人取り残さない」防災研修業務事業

## 1 概要

豪雨や地震等による大規模災害が各地で発生し、一人で避難することが難しい高齢者や障害者といった「避難行動要支援者」に被害が集中している実態が明らかになってきている。誰一人取り残さない避難につなげようと、兵庫県では平成30（2018）年度から、当事者や行政、地域住民、福祉専門職が協力する「防災と福祉の連携による個別避難計画」の作成に取り組んでいる。令和3（2021）年5月には改正災害対策基本法が施行され、個別避難計画の作成が市区町村の努力義務となり、誰一人取り残さない避難の重要性が一層叫ばれるようになってきた。

兵庫県が各市町に対して個別避難計画作成促進を支援するこの事業は、広く一般県民から福祉や防災の関係者を対象にした防災の基礎的な内容を、オンデマンド配信で提供する兵庫県から委託された人材育成事業である。

また、兵庫県の取り組みが全国的に注目されていることから、他府県からも行政職員対象研修の企画・運営要請を受け、本会防災連携支援員が講師として出向いて研修実施に協力した。一般住民向けの防災啓発イベントや自主防災会・自治会関係者等対象の研修において、各自治体が模索を続けていると言えよう。

## 2 事業報告

「誰一人取り残さない防災研修」

2023年8月1日～2024年3月31日：オンデマンド方式で講義動画配信

全国からの受講申し込み者215名（うち兵庫県162名）

# 個別避難計画作成促進 オーダーメイド型研修企画運営事業

## 1 概要

災害時要配慮者を支援するため、各市町では、自治会・民生児童委員・福祉専門職・地域総合支援センターやまちづくり協議会、市町等の関係者が協力し、災害時に避難支援が必要な要配慮者一人ひとりの事情に応じた個別の避難計画作成を進めているが、現状では地域の避難支援等実施者が不足しており、住民主体の個別避難計画作成がなかなか進んでいない。

自主防災会・自治会関係者等を対象に、地域共助による支援体制の強化を図ることを目的に研修を実施したい市町に対して、研修企画当初から関わり当日の運営に協力する事業に、前年度から取り組んでいる。本事業は県防災支援課からの委託事業である。

## 2 事業報告

「明石市オーダーメイド型研修企画運営業務」

（研修名：明石市ひなんサポーター研修～災害時にみんなで助かるために「ひなんサポーター」になろう！～）

2024年11月23日（土）午後「あかし保健所多目的ホール」で開催（140名参加）

講義と演習に本会から5人が運営参加した。

講義：災害時にみんなで助かるために ～避難行動要支援者とのつながりづくり～

演習：「避難時にみんな協力するために ～避難行動要支援者の支援のポイントを理解する～」

# 兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口事業

## 1 概要

無償で祖父母、父母、兄弟などへの介護や看護、日常生活上での世話などをするケアラーや18歳未満の子どものヤングケアラーは、周囲も気づきにくく本人や家族の自覚がないまま表面化しないなど、近年、大きな社会問題となっている。

兵庫県では、2021年9月に「ケアラー支援に関する検討委員会」を設置し、4回にわたる審議を行い、推進方策をとりまとめた。

「ケアラー・ヤングケアラーは、周囲も気づきにくく、本人や家族の自覚のないまま表面化せず、必要な支援が行き届いていない。」「社会的な認知度が低く、適切な支援につなげるためには社会的認知度の向上が重要である。」「ケアラー・ヤングケアラーに対する具体的支援策や支援につなぐための窓口が明確でなく、福祉、介護、教育関係者の研修も十分に行われていない。」といった課題が挙げられ、「相談窓口は住民に最も身近な市町に設置することが適当であるが、市町の取り組みが十分に進んでいないことから県がモデル的に相談窓口を設置することが必要。」という方策が示された。

これを受けて、兵庫県はヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口事業を兵庫県社会福祉士会に委託し、2022年6月1日に相談窓口を開設した。

## 2 事業報告

### (1) 相談窓口業務

- ・開設日時：月～金の9：30～16：30（祝日・年末年始を除く）
- ・相談員は本会の会員、1日あたり1～2名を配置。
- ・相談件数

(1) 電話相談件数： 271 件 【新規相談者数 当事者 2名 家族 9名 支援者等 31名 延べ相談者数 当事者 28名 家族 70名 支援者等 173名（支援機関連携 110件）】
(2) LINE相談件数： 717 件 【新規相談者数 当事者 5名 家族 2名 支援者等 4名 延べ相談者数 当事者 646名 家族 53名 支援者等 18名（支援機関連携 6件）】 LINE通話相談件数： 5 件 延べ当事者 5名 家族 0名 支援者等 0名
(3) メール相談件数： 16 件 【新規当事者 1名 家族 0名 支援者等 1名 支援機関連携 0件 延べ相談者数 当事者 9名 家族 4名 支援者等 3名（支援機関連携 2件）】
(4) その他相談件数： 3 件 【延べ当事者 1名 家族 0名 支援者等 2名 支援機関連携 0件】
合 計： 1,012 件 【新規相談者数 当事者 28名 家族 11名 支援者等 38名 延べ相談者数 当事者 689名 家族 127名 支援者等 196名（支援機関連携 118件）】

### (2) 研修等の実施

#### ① 相談マニュアル作成～市町向け支援マニュアル作成～

ヤングケアラーの支援に関わる市町担当者や学校関係者向けに支援体制の整備や支援展開フロー等を全57頁にまとめたほか、概要版や30分程度にまとめた動画も令和6年10月に作成した。

#### ② フォーラムの実施

令和7年3月14日に兵庫県看護協会ハーモニーホールにて開催した。第1部はヤングケアラーをテーマにした映画「猫と私と、もう1人のネコ」の上映、第2部は当該映画監督を含めた支援者・元当事者のトークセッションを行った。

### (3) 相談窓口等広報業務

#### ① 広報チラシ等印刷・配布

・相談窓口及び配食支援事業の案内（A4両面）チラシを作成し、各関係機関にデータを配布した。ま

た、県から本会が受託を受けている各研修（障害者虐待対応力向上研修、医療的ケア児等支援養成研修、医療的ケア児等コーディネーター養成研修、地域包括支援センター職員向け相談対応力向上研修）の受講者にも周知を行った。

- ・上記A4チラシは10,000枚印刷し、対面での研修・イベントの際に参加者へ配布した。
- ・ヤングケアラーフォーラムのチラシも10,000枚印刷し、周知を行った。
- ・居宅介護支援事業所や特別支援学校、民生委員等を対象としたヤングケアラーについての研修依頼に応じ、研修会を行った（年5回）
- ・兵庫県社会福祉士会の広報誌及び近畿ブロック研修・研究兵庫大会に当該相談窓口の記事を掲載し、本会会員及び福祉関係者等への周知を行った。

#### ②LINE公式アカウント作成・管理

- ・相談受付、対応は従前通り。
- ・登録者数（延べ）の推移

4月末368名、5月末378名、6月末391名、7月末398名、8月末403名、9月末414名、10月末421名、11月末426名、12月末431名、1月末443名、2月末447名、3月末457名であり、前年3月末366名と比較し、この一年間で91名登録者増となった。

#### ③WEB等における広報業務

- ・兵庫県社会福祉士会のホームページ及びFacebookなどにより広報を行った。

#### (4) 配食支援業務

ヤングケアラー・若者ケアラーに対して食事の提供を行うとともに、ケアの必要な家族への福祉サービスの支援につなげることを目的に、週1回に1食×世帯人数分の食事を無料で提供した。

- ・配食実施件数：64件（兵庫県44件、神戸市20件）